

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 19 日現在

機関番号：22302

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22720045

研究課題名(和文) イタリアにおける「樹木の聖母」画像の総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive study of Iconography of the Madonna dell'Albero in Italy

研究代表者

大野 陽子 (Ohno, Yoko)

群馬県立女子大学・文学部・准教授

研究者番号：80512938

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円、(間接経費) 1,050,000円

研究成果の概要(和文)：美術史及び図像学研究において十分に認識されておらず実態が知られていない、「樹木の聖母」画像に関する本研究では、中世から近世初期にかけての当該の聖母像への崇敬の全体像を把握すべく、多数の巡礼地があるイタリアとスイス南部に調査地域を絞り、現地調査と資料調査を行った。その結果、同地域にかけて120余の「樹木の聖母」巡礼地が現存することを確認した。巡礼地の創建伝承、巡礼地の地域分布の傾向、画像の分析から、「樹木の聖母」は、異教的イメジャリの農村部への残存という理由だけではなく、「樹木の聖母」の視覚表現(画像)がキリスト教の正統的な画像と相互関係にあったことに由来するのではないかと指摘した。

研究成果の概要(英文)：This study is about an iconography called Madonna dell'Albero (Madonna of Tree), unrecognized among the art historians. To grasp whole picture of the devotion to this type of Madonna from the Middle Ages to Early Modern period, I researched in Italy and southern part of Switzerland where a large number of pilgrimage site is dedicated to Madonna dell'Albero. In result of field work and research based on documents, it was confirmed that there are over 120 pilgrimage sites in these area. Analyzing their legends of foundation, tendency of the local distribution and the images of their Madonna, indicates the reason of surviving of the devotion and image of this type of Madonna is explained not only because of the remains of paganical imagery in rural areas, but also because the visualization of this Madonna is interrelated to Christian canonical iconography.

研究分野：美学・美術史

科研費の分科・細目：美術史

キーワード：イタリア 聖母画像 樹木の聖母

### 1. 研究開始当初の背景

管見する限り、樹上に聖母子を表した「樹木の聖母」図像に関して総合的な研究はなされていない。一方、個別の作例研究においては、中世の聖母崇敬の高まりにより、イエスの家系図を象徴的に表した「エッサイの木」において、エッサイの脇腹から生えた木の頂きに聖母マリアが表されるようになり、モーセが荒地で燃える柴の中に神を幻視したという逸話に基づく図像「燃える柴」においても「燃える柴」の中に聖母が顕れる形を取り始めたことが指摘されている。

しかし、本研究で対象とする、聖母出現もしくは聖母子像による奇蹟譚に基づいた「樹木の聖母」崇敬とその図像については、巡礼地で造られた「樹木の聖母」の造形作品は審美的価値が低いと見なされ、従来、美術史学の研究対象とならなかった。

従来の図像研究では、「エッサイの木」や「燃える柴」の図像における聖母と木の組み合わせも、中世末期に消失あるいは新しい聖母図像に吸収されたと見なされており、民衆信仰由来の「樹木の聖母」は独立した図像として認識されていない。

しかしながら、「樹木の聖母」の巡礼地やその図像作例は、イタリアをはじめとするヨーロッパ広域、さらにはインドなどのカトリック聖堂内にも確認できる。それらの事例からおそらくは中世末期から近世にかけて広範囲にこの図像が伝播していたと推測される。

### 2. 研究の目的

樹上に聖母子を表した図像「樹木の聖母」の中世末期から近世にかけての伝播、変容、消滅、残存を明らかにすることを目的とする。「樹木の聖母」を独立した図像としてその起源とイタリアにおける伝播の実態を解明すること自体、美術史学の重要な基礎研究である。

本研究期間内においては「樹木の聖母」の巡礼地が多数存在することが確認されているイタリアとスイス南部のカトリック圏に調査地域を絞り、本図像の伝播と教会による宗教画像の統制の関係を解明する。

巡礼地では「樹木の聖母像」は霊験あらたかなイメージとして版画化され、奉納画に描かれるなど、増殖していく。それにより図像は一層「民衆の想像力」に根付いていく。つまり、本来、造形作品の受容者である民衆が「樹木の聖母」の図像と造形作品の創造プロセスのなかでは、受容者であると同時にイメージの創造者となる。このような巡礼地における奇蹟とイメージ、「民衆の想像力」と造形作品との関係は、近年の美術史研究における重要な問題の一つである。中世末期から近世にかけてのイタリアにおける「樹木の聖母」の図像研究を通して、最終的には「民衆の想像力」中のイメージと造形イメージとの

関係、カトリック教会の介在の本図像への影響を明らかにできよう。

また、イタリアおよびスイス南部における「樹木の聖母」研究の成果公表によって、当該地域以外にも現存する「樹木の聖母」図像の研究の可能性を開くことにもなるだろう。

### 3. 研究の方法

研究対象に関連する史資料の多くが国内では入手困難であり、イタリアでの調査と、調査結果の国内での分析とを繰り返しながら研究を進めていく。イタリア、スイス南部における巡礼地および「樹木の聖母」像の実地調査と、古文書館、図書館などでの史資料調査、図像調査を行い、それらの分析、社会的アプローチを行う。

海外調査に当たってミラノ大学、ロンバルディア美術史研究所など現地の研究者の協力を求める。

#### 22年度：

北イタリアの「樹木の聖母」巡礼地が対抗宗教改革期のカトリック教会の宗教画像政策の影響をどのように被ったのかを中心に研究を進める。ミラノ近郊インヴェリーゴのサンタ・マリア・デッラ・ノーチェ[くるみの聖母]聖堂、メッザーナ・スペリオレのサンタ・マリア・デッラ・ギアング[榎の木の聖母]聖堂、ミラノ大聖堂内の「マドンナ・デッラルペロ[樹木の聖母]」礼拝堂に関する調査を中心に行う。

4 聖堂の実地調査、また当該聖堂に関する史資料をミラノ大司教区古文書館、建築文化財監督局修復部において閲覧、収集。

#### 23年度：

イタリア北部ピエモンテ州の巡礼地(クネオのサンタ・マリア・デッロルモ[榆の木の聖母]聖堂、プラート・セジアのサンタ・マリア・デッラ・クエルチャ[榎の木の聖母]祈禱堂、モンクリヴェッロのベアタ・ヴェルジネ・デル・トロンポーネ[切り株の聖母]聖堂)の現地調査を進め、ミラノおよびトリノの国立図書館、司教区古文書館などで上記聖堂に関する資料調査を行った。

スイス南部ティチーノ地方の以下聖堂で(アスコーナ、サンタ・マリア・デッラ・ミゼリコルディア聖堂、ロンコ・ソプラ・アスコーナ、サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ聖堂、サン・マルティーノ聖堂)で「樹木の聖母」の作例を実見し、参考文献をミラノ市立美術図書館、ミラノ大司教区古文書館などで閲覧、収集した。

#### 24年度：

「樹木の聖母」から「ロザリオの聖母」図像への変容という新たな研究の焦点が浮上したため、過渡期の「ロザリオの聖母」を含む事例調査を「樹木の聖母」のそれと平行し

て進めていく。また「樹木の聖母」崇敬自体、予想よりも多く現存していたことが判明してきたから、事例のなかには直接、参考資料のないケースもあり、「樹木の聖母」データベースは二次資料に基づくものとする。

イタリア最大の「樹木の聖母」の巡礼地ヴィテルボのマドンナ・デッラ・クエルチャ[榎の木]聖堂の現地調査を行い、同聖堂の分院であるローマのサンタ・マリア・デッラ・クエルチャ聖堂で「樹木の聖母」の作例を実見し、2聖堂についてローマ国立図書館などにおいて資料収集を行う。

ローマ国立同図書館においてイタリア全地方の巡礼地に関する文献の精読、収集を行う。「樹木の聖母」事例についての情報を収集。

イタリア北部の3巡礼地を調査し、ベルガモ近郊の「樹木の聖母」の巡礼地インベルサーゴのサンタ・マリア・デル・ポスコ[森の聖母]聖堂および、ベルガモおよびミラノ周辺(トッレ・ポルドーネ、パニアコ、ヴィモドロネ等)に残る「樹木の聖母」から「ロザリオの聖母」の過渡期の図像作例を実見し、現地調査。当該聖堂について、ベルガモ市立図書館、ミラノ国立図書館などで関連文献を収集した。

25年度：

最終年度として、前年度までの収集データの一部の論文資料としての公表を企図して、イタリアおよびスイス南部の「樹木の聖母」巡礼地のデータベース化、分類、分析を行う。

教会の芸術製作、「民衆の信心」の利用という観点からのケーススタディの対象を、同時代に積極的に宗教芸術を統制していたミラノ大司教区内の4聖堂に定めて、巡礼地の創建以降の沿革を同時代資料の分析を行う。

同時に、新たに浮上してきた「樹木の聖母」から「ロザリオの聖母」図像への変容という新たな問題点を整理すべく、「ロザリオの聖母」の先行研究の把握に努める。

#### 4. 研究成果

美術史及び図像学研究において十分に認識されておらず実態が知られていない、「樹木の聖母」図像に関する本研究では、中世から近世初期にかけての当該の聖母像への崇敬の全体像を把握すべく、多数の巡礼地があるイタリアとスイス南部に調査地域を絞り、現地調査と資料調査を行った。その結果、同地域にかけて120余の「樹木の聖母」巡礼地が現存することを確認した。巡礼地の創建伝承、巡礼地の地域分布の傾向、図像の分析から、「樹木の聖母」は、異教的イメージの農村部への残存という理由だけではなく、「樹木の聖母」の視覚表現(図像)がキリスト教の正統的な図像と相互関係にあったことに由来するのではないかと指摘した。

本研究期間の初年度において、研究感興や職務が変わったことや、「樹木の聖母」巡礼地の予想以上の現存率などから、イタリア半島、スイス南部における「樹木の聖母」の地域分布などの全容把握に時間が割かれ、個別の巡礼地について詳細に考察を深めることはできなかった。

しかし、今回集めたデータに基づいて、個別の巡礼地、とりわけ、対抗宗教改革期に図像の統制が行われていた北イタリアにおける巡礼地のケーススタディの対象が定まり、より明確な枠組みのなかで「樹木の聖母」イメージの視覚化と崇敬の残存との関係の検証を進められることとなった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 1件)

大野陽子「イタリアにおける「樹木の聖母」-崇敬と図像」『民族芸術』vol. 30、2014年、162-173頁

[学会発表](計 1件)

大野陽子「イタリアにおける「樹木の聖母」-崇敬と図像-」民族芸術学会、2013年4月28日、郡山女子大学

[図書](計 件)

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

大野陽子 ( )

研究者番号：80512938

(2)研究分担者  
( )

研究者番号：

(3)連携研究者  
( )

研究者番号：